

アルジェリアでの人質事件について

民族や宗教を超えた民衆の連帯へ

チュニジアでの世界社会フォーラム2013の成功を

2013年1月 ATTAC関西グループ

私たちは今年3月26-30日にチュニジアの首都チュニスで開催される世界社会フォーラム

2013 (WSF2013) に代表を派遣するための準備を進めています。チュニジアは2010

年末から2011年初めにかけての「アラブの春」の発祥の地であり、WSF2013は「西洋

対イスラム」という枠組みを超えたグローバルな市民運動、社会運動の交流と共同作業のための大きな一歩となります。

[世界社会フォーラム2013については: <http://attac-kansai.com/file/wsf2013.pdf> をご覧ください]

私たちはチュニジアの隣国、アルジェリアで起こった人質事件と多数の人々の犠牲に衝撃を受けています。そして、この時期にこの地域で開催されるフォーラムが、ますます大きな意味を持っていることを感じています。

WSF2013のテーマは「尊厳」です。WSF2013を主催するマグレブ・マッシュリクの多くの社会運動団体の間での議論の中で合意されたテーマです。ヨーロッパによる植民地支配、独立後も続く独裁体制や戦争の中で、マグレブ・マッシュリクの人々は「アラブの春」を通じて、自分たちの尊厳を取り戻す闘いを進めてきました。「アラブの春」はその後の後退や混乱

にもかかわらず、この地域における新しい歴史の始まりを刻んでいます。

アルジェリアでの人質事件は日本人を含む多くの犠牲者を出し、悲劇的な結末を迎えました。今回の事件は、その背景や経過等、今後解明されるべき点や、教訓化されるべき点が多くあり、冷静で客観的な検証が必要になるでしょう。現時点で明らかにされている限りでは、今回の事件はアルカイダのネットワークに属するイスラム原理主義グループが関与していると言われています。今回の事件に限らずアジア、中東からアフリカまで広範な地域でイスラム系武装グループによるテロ行為が繰り返され、そのたびに「テロとの闘い」が宣言されています。

しかし、私たちは「テロとの闘い」ではなく、テロ行為が繰り返される背景について、「先進国」側の責任を含めて、真剣に考え、平和的な解決をめざすべきだと考えます。「アルカイダ掃討作戦」としてアフガニスタンなどで展開されている米軍を中心とした作戦活動では、子どもを含む多くの民間人の犠牲者が報告されています。たとえ犠牲者に「先進国」の人間が含まれていなくても、こうしたことが悲劇であり、人道への大きな脅威である、ということの真摯な反省が必要です。

また、今回の事件と深くかかわりがあると思われるフランスのマリへの軍事介入に関連して、私たちはフランスをはじめとする「北」側の諸国のダブルスタンダード(二重基準)を厳しく批判しておく必要があります。フランスやドイツからこの地域に輸出される大量の武器、原発大国フランスのこの地域のウラン確保の意図、フランス軍による民間人(子供を含む)の殺害などの問題を考えるとき、軍事介入は「人道的介入」として美化できるものではありません。「人道的介入」を言うなら、今すぐイスラエルによるパレスチナ人

に対する攻撃や入植地建設を阻止するための外交的措置を取るべきです、

日本では、メディアの関心が日本人の安否情報に過度に集中し、それに伴って自衛隊の海外派遣等の短絡的議論が横行しています。これは非常に危険なことです。アルジェリアやアラブ・アフリカ諸国の人たちの犠牲や、その背景にあるこの地域の政治的不安定、その原因をつくってきた不公正な世界経済のシステムに想像力を及ぼせることによって、軍事的手段でない解決の方法を模索する手がかりが得られるはずです。

日本政府は、人質とされた人々の生死を決定づけた数日間、「情報収集にあたっている」という発表を繰り返したのみで、いかなる外交的努力も行いませんでした。この地域における紛争の直接の当事者であり、負の歴史的責任を負っているフランスやNATO諸国に代わって、日本が外交的解決のイニシアチブを発揮する可能性は大きいはずであり、その用意があることを表明することだけでも、その後の事態の変化に大きな影響を及ぼすことができたはずです。さらに、アルジェリア政府に対して慎重な対応を要請することも可能であったはずです。

実際には、日本政府は日米同盟の呪縛のために、そのような努力をあらかじめ放棄し、傍観を決め込み、その上で今回の事件を自衛隊の役割強化に利用しようとしています。また、日本の過去の侵略の事実を否定する言説が横行していることが、日本の外交努力の道義性を損なっています。

私たちは、このような政府の外交政策に反対し、市民や社会運動団体、政党等による多面的な外交を通じて国際的な平和構築に向かっていかなければなりません。チュニジアで開催される世界社会フォーラムはそのための大きなステップとなるでしょう。

日本から、多くの団体、個人の方々が WSF2013 に参加されるよう、また、WSF2013 参加に

ご協力いただけるようお願いいたします。インターネットを通じた参加(会場と中継したオン

ライン・イベント)も呼びかけられていますので、ご検討ください。